

1. 外部評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970400376
法人名	有限会社奈良ライフサポート
事業所名	グループホームゆりかご
所在地	天理市櫛本町1461-3 (電話)0743-61-0867

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	2007年10月15日

【情報提供票より】(H19年 9月 23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物構造	木造		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(500,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(9月 23日現在)

利用者人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	原病院
---------	-----

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JRの駅にほど近く、農家の家並みが集まった静かなところにある。近くに神社があり、境内には椅子も置いてあって、四季折々の風景が楽しみ、散歩に最適である。ホームは木造2階建てで、定員を7名にし、一人ひとりの居室を他より広く確保している。職員の離職率が低く、顔馴染の職員によって安心した生活が保たれている。手づくりの食事も美味しく、家族の評価も高い。運営理念の「のんびり、ゆっくり、ゆったり、その人らしく」が実現されているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	トイレ誘導の声かけを、耳の遠い人には、大きな声ではなく、文字カードでさりげなく知らせるようにした。お風呂場や廊下など手すりを利用者のより使いやすい高さに取り付けた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	年々利用者のADLが低下していくため、職員で話し合い、その状況居合わせて新たに手すりを配置したり、畳の部屋の段差を無くしてリして、暮らしやすいようにホームづくりを工夫している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議では、主にホームの理念や現況、活動内容の報告が行われている。今後、意見交換を活発にし、サービスの質の向上に向けた、より具体的な話し合いが望まれます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族の思いは、面会時や電話連絡時に積極的に聞くようにしている。月一回金銭管理帳のコピーを送るとき、写真も送るようにしているが、休刊中のホーム便り「ゆりかご通信」の復活が望まれる。また、重要項目説明書に外部苦情受付窓口の記載が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	自治会に加入し、地域のお祭りや幼稚園の行事などに参加している。また、ボランティアの受入れや中学生の職業体験も受け入れている。

2. 外部評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「季節の花をたやさない、笑顔があふれる施設」「のんびり、ゆっくり、ゆったり、その人らしく」などの理念がパンフレットや重要項目説明書などに書かれている。	○	地域密着型サービスとしての視点も理念に取り入れてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	採用時の研修で説明し、その後は、日ごろの具体的な活動の中でその思いが伝わるよう職員に話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域のお祭りや幼稚園に行事などに参加している。また、ボランティアや中学校の職業体験学習を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価で指摘されたところは、積極的にみんなで話し合い、具体的に改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、地域包括支援センター、自治会長、利用者家族、ホーム職員で3ヶ月に一回行われ、活動報告や意見交換を行っている。その結果を職員にも伝えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月天理市が主催する「担当者会議」で、意見交換を積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理帳は毎月コピーして、写真などと共に送っている。	○	以前発行されていたホーム便り「ゆりかご通信」を、ぜひ復活してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や電話の機会に、意見を聞いている。また、重要項目説明書に事業所内の苦情受付窓口が記載されている。	○	家族に意識的に意見を聞く機会を設け、それを記録してほしい。また、重要項目説明書には、外部苦情受付窓口も記載してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率がよく、利用者は顔馴染みの職員に安心してサービスを受けている。退職するときは、利用者の負担にならないよう気を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には現場で働きながら指導している。県主催の研修会に参加したり勉強会を開催したりしている。	○	外部研修や内部研修を計画的に行い、職員全体がレベルアップする仕組みを作してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知り合いのグループホームと情報交換をしている。認知症対応型通所介護施設と交流を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループのデイサービスから来る場合は、顔馴染みのデイの職員が付き添う。また、何回か体験を繰り返して、入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	幼稚園の先生や園長さんをしていた人に歌を歌ってもらったり、調理のとき、味付けなどを教えてもらう。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居のときに生活歴、暮らしの希望などを詳しく聞き、入居後もその都度思いの把握に努めている。面会時には、家族の思いを聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族の希望を考慮して、職員で話し合っって作成し、家族に説明をして了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは、変化があったときはその都度、変化がないときは、半年から一年で更新している。	○	介護計画の定期的な見直しは、3ヶ月に一回し、変更がないときは、見直した日付を記録してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	シンデレラの日をつくり、その日一日は、本人の特別な希望を実現する日にしている。医療機関への送迎や手続きなどは、無料で行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに夜中でも往診してもらえるかかりつけ医を確保し、また他の病院も職員が送迎し、医療面で本人も家族も安心できる状況にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム開設時に比べ、重度化が進んでいる。ターミナルのあり方について、本人や家族と取り決めをし、希望によってターミナルケアも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	耳が遠くなった人もおり、起床やトイレ誘導の言葉かけなどは、文字カードを使用し、大きな声を出さなくてもよいよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースや体調、希望に合わせて、午後から散歩をしたり、レクリエーションをしたりしている。なるべく本人の希望に添えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLの低下で、食事の準備を手伝ってもらえる人が少なくなっている。食事のときは、職員は介助の必要な人の横に座り、さりげなく介助をしながら一緒に食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭用のお風呂に、週3回入るように支援している。人員配置の関係から、夜間入浴は実現していない。	○	利用者の希望があれば、夜間入浴も試みてほしい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のADLの低下によって、できることが少なくなっているが、洗濯物のしわ伸ばしや、たたむのを手伝ってもらう。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLが低下しているため、一人で歩ける人が少なくなっているが、なるべく毎日外出し、外気に触れるように支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には、鍵はかかっているが、ホームを出たところに水路があるため、日中も玄関に鍵をかけていることがある。徘徊される方は、職員が付いて外に出るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡マニュアルがあり、消化訓練も行われている。また、火災検知器があり、異常があるとすぐに警備会社に来るようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は手づくりで品数も多く、味や栄養バランスがとてもよい。利用者の大きな楽しみとなっている。個人の一日の水分量の記録が分かりにくい。	○	個人の一日の水分摂取量がわかるような記録の工夫が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	理念にあるように、季節の花を絶やさないように工夫している。テーブルの足を切って使いやすくしたり、高さの異なる手すりを増やしたり、畳の部屋の段差を無くすなど、利用者のADLの変化に対応した工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	定員を7名にしぼり、居室を他の施設より広くとっている。使い慣れたベッドや机、テレビや箆笥などが持ち込まれ、居心地よい空間がつけられている。		